

研究計画書

ゼミ名	永廣ゼミⅡ	チーム名	バブルマン
タイトル	バブルを起こしたい!?		
テーマ群	b) 財政・金融		
メンバー	岩井滉平 塩野清貴 浦川裕生 隠地前翔太 石田誠太郎 宮本祐輔 草下博彬 明照圭祐 廣瀬郁也 中村厚士		
研究計画内容	<p>「バブル」を研究するにあたって、まず初めに、バブルが発生する以前の時代背景やきっかけとなった出来事を調べあげ、どのようにすればバブルが発生するのか、その一連の流れを明確にします。</p> <p>次に、バブルが起こったことによって得られる経済効果や人々の生活にどのような良い作用があったのかなど、バブルがもたらすプラス面を調べます。また、バブル崩壊の原因は何か、バブル崩壊によって経済や人々の生活にどれほどの悪影響を及ぼしたのか、というマイナス面についても調べます。このように、バブルがもたらした経済効果を両方からの面で見ることによって理解を深めます。</p> <p>また、バブルについて調べたことを参考にし、様々な観点から、バブルを起こさず好景気にするために重要なことや、バブルのような崩壊を防ぎ好景気を維持していくためにはどのようなことが必要とされるのかを考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期待される効果 <p>日本が一度経験し、高度経済成長を遂げた「バブル」というものを詳しく調べることによって、現在の日本が抱える財政問題などの多くの不安要素を解消し、国民一人一人のよりよい生活を実現できるヒントが得られると考えます。また、バブルの発生や崩壊の原因を調べることで、バブルのような短期間の好景気ではなく、長期間の好景気を継続するために必要なことを見つけ出します。</p> <p>そうすることで、もし日本でバブルが発生したとしても、以前のように、日本のバブル崩壊後の悲惨な結果を招かないように対策し備えることが出来ると思います。</p> <p>このようなことが、私たちが「バブル」について研究することで期待される効果です。</p>		